

一方的な押し付け「学校統廃合」は許せません

代々木小学校と山谷小学校の学校統廃合問題が急浮上しています。

小・中学校は児童、生徒の学びの舎であり、そこは勉強するだけでなく友達や教師、地域の人びととのふれあいを通して一人ひとりの子どもたちが成長していく場です。また、住民の安全を守る防災拠点でもあり、コミュニティの要の役割を持つ大切な住民の施設です。

学校の統廃合は、これまで学校を中心に地域の人たちが、営々と築き守ってきた教育環境、地域環境を一方的に壊すものです。

多くの保護者が納得できないと声を上げている代々木・山谷小学校の統廃合計画は中止すべきです。



日本共産党
渋谷区議団

父母から「反対」「見直し」の声 区・教育委員会は真摯に耳を傾けよ

3月の区議会に、区と教育委員会は、山谷小学校の耐震補強工事は技術的に無理として建替えを提案し、建替え中の期間、山谷小学校の児童を代々木小学校で学習という方向を示しました。

両校の父母や地域のみなさんは、建替え後は、山谷小の児童は山谷小に戻り、代々木小は元に戻るものと考えていました。

教育委員会は

●4月の山谷小学校の保護者説明会では、建替え計画は「統廃合は前提としていない」と説明。



●6月30日の保護者説明会では、直近の教育委員会で「両校を母体とした新しい学校をつくる」、つまり「学校統廃合する」ことを決めたと説明。

山谷小学校の建て替えをめぐる保護者の疑問・意見

- 区の一方向的やり方は納得できない。保護者の意見を尊重してほしい。
- 工事期間中、100人の代々木小に、200人の山谷小の児童を受け入れることに不安。
- 子どもたちの通学距離が長くなって心配。
- 十分な準備期間を設けるべき。強行姿勢をただすべき。
- 代々木小では8割の保護者が反対している。リセットすべき。
- 小規模校を選択したのに選択制の意味がない。
(この他に問題を指摘する意見が多数)

この両校の「学校統廃合」の決定について、説明会の参加者から、教育委員会の一方的で強引なやり方に批判の意見が相次ぎました。

6月7日の区議会で、党区議団のいがらし千代子議員は、区議会にいったい報告せず統廃合をすすめる区長と教育長に対し、子どもたちを犠牲にする「学校統廃合は絶対にやめるべき」と質しましたが、「計画通り進めたい」と答弁しました。

文部科学省の「学校の統合」についての通達 (2005年8月)

小規模校は、教育組織や施設整備等の充実を図る上で困難が伴うことが多い一方、教職員と児童生徒の人的ふれあい等の面で教育上の利点が考えられます。学校統合にあたっては、これらの点をふまえて、十分に地域住民の理解と協力を得て行う必要があります。

学校統廃合を白紙に戻し、 学校単位で解決を

日本共産党区議団は、学校統廃合を断じて認めることはできません。

理由の第一は、学校統廃合をトップダウンで押し付けることだからです。この問題は保護者はもちろんのこと、地域、教育関係者などの幅広い意見を求め、決定するのがルールです。

第二に、「建替え」という結論に至った経過、施設の情報明らかにされていないことです。議会や住民・保護者に耐震診断の全内容を公開すべきです。

第三に、改築の選択肢を広げ、あらゆる建築技術を駆使し検討を図るべきです。そして、その結果についてきちんと公開すべきです。

第四に、なによりも、代々木小、山谷小を残す決断が大事です。その上で、どんな改築方法をとる場合でも、それぞれの学校単位で解決することを基本に据えるべきです。



子どもたちを 「効率化」の犠牲にはなりません

●本町地区の小中学校統廃合による小中一貫教育校建設についても、地域の保護者、住民から「延期・見直し」を求める署名が提出されました。党区議団は、学校統廃合について、財政削減を目的としており、地域・教育環境を壊し、その犠牲を子どもや地域に押しつけるもので反対してきました。

●公立保育園、幼稚園を廃園にして民間の幼保一元化施設・「認定こども園」の設置。これも、「効率化」の名の下に強行されています。歴史的に培われ、役割も違う保育園と幼稚園を統廃合することは、子ども



たちを犠牲にするもので許されません。

●今度の、代々木小と山谷小の統廃合は、まさに、「小規模校はムダ」と言わんばかりに効率化を優先し、子どもに犠牲を強いるものです。

党区議団は、それぞれの学校を守るために力をつくします。